

＜小学校国語部会＞

研究主題

「個に応じた補足的な学習と発展的な学習の在り方」

－「書くこと」の指導を通して－

研究の概要

「確かな学力」をはぐくむという学習指導要領のねらいの実現に向けて、個に応じた指導を充実させるため、新たに習熟の程度に応じた指導や補足的な学習や発展的な学習を取り入れた指導等が学習指導要領に例示として付け加えられた。一方、平成13年度教育課程実施状況調査報告書によれば、相手や目的に応じて自分の考えを明確にして構成しながら、文章を書く力を育成することが、指導上の改善点として示されている。また、「書くこと」の指導は、個人差や能力差が表れやすく、個別に学習が行われるという特色をもち、個に応じた指導の充実が求められている。

これらの課題を踏まえ、「書くこと」における補足的な学習や発展的な学習の在り方を明らかにすること、補足的な学習と発展的な学習の言語活動例の系統ごとの一覧表を作成すること、指導体制に応じた効果的な指導方法を明らかにすることの3点について研究開発を行った。

I 研究の目的

個に応じた指導を充実させるための補足的な学習と発展的な学習の在り方を、「書くこと」の指導を通して明らかにするとともに、指導の改善を図るための研究開発を行う。

II 研究の方法

- 1 「書くこと」における補足的な学習と発展的な学習の在り方について学習指導要領の一部改正の趣旨を踏まえながら研究協議を行う。
- 2 「書くこと」における補足的な学習と発展的な学習を推進するための指導資料として、学習例の一覧表を作成する。
- 3 「書くこと」における補足的な学習と発展的な学習を取り入れた検証授業を行い、指導体制に応じた効果的な指導について考察する。

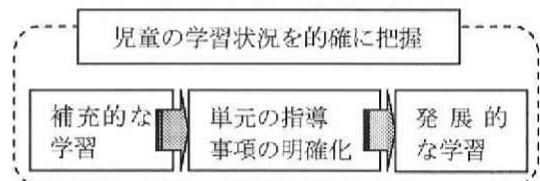
III 研究内容

基本的な考え方

確かな書く力を身に付けさせるためには、児童一人一人の書く力を的確に把握しながら、指導をすることが必要である。しかし、児童の実態は多様であり、関心・意欲の傾向や書く能力は一人一人異なっているため、個に応じた指導といっても、すべてにおいてきめ細かく対応することは難しい。

そこで、単元ごとに、どのような力を身に付けさせるかを明確にすることが必要である。指導目標を明確にした指導を積み重ねていくことにより、児童に確かな力を身に付けさせることができると考える。

そのための一つの方法が、補足的な学習と発展的な学習である。補足的な学習及び発展的な学習については、「個に応じた指導に関する指導資料 ー発展的な学習や補足的な学習の推進ー」（文部科学省 平成14年）に、次のように示されている。



- 補足的な学習・・・子どもの理解や習熟の状況等に応じ、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために行う学習指導
- 発展的な学習・・・学習指導要領に示す内容を身に付けている子どもに対して、学習指導要領に示す内容をより深める学習を行ったり、さらに進んだ内容についての学習を行ったりするなどの学習指導

このことを踏まえ、「書くこと」の指導における補足的な学習と発展的な学習に関する研究開発を行った。

1 「書くこと」における補充的な学習と発展的な学習の在り方

(1) 補充的な学習

補充的な学習は、評価規準に照らして、「おおむね満足できる状況（B）」に至らない児童に対して行われるものである。その内容を次の二つに分けて考えた。

一つは、単元目標を達成させるために必要な指導事項である。学習指導要領の国語科の領域構成は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域1事項である。そのうち、言語事項は、言語活動を支える基礎・基本となる指導内容である。言語事項などの単元目標を達成するために必要な指導事項について、繰り返しの学習を行い定着を図る学習を補充的な学習として考えた。

もう一つは、単元目標につながる指導内容である。国語科の指導内容は系統的・段階的に上の学年につながっているという特色をもつ。一人一人の児童に応じた補充的な学習を進めていくためには、前学年における内容や当該学年におけるそれ以前の単元での内容について学習を行う必要も出てくる。既習の内容についての学習を行い、単元目標の達成を図ることが補充的な学習として考えられる。

(2) 発展的な学習

発展的な学習は、評価規準に照らして、「おおむね満足できる状況（B）」の児童に対して行われる学習である。国語科の指導内容は、螺旋的・反復的に繰り返しの学習を基本としている。このことから、身に付けた力を活用したり、応用したりすることが、生きて働く言葉の力を高めることにつながると考え、その内容を次の二つに整理した。

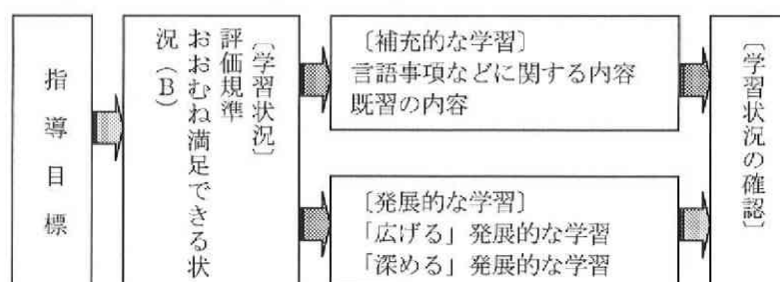
一つは、相手や方法などを換えて文章を書く活動などの「広げる」発展的な学習である。「伝え合う力」を育成するためには、常に相手や目的を意識して書く活動が行われることが重要である。単元の指導目標を達成したと判断される児童には、異なる相手や目的、方法で書く活動を行う学習を設定することにより、一層、書く力が高まると考えた。

もう一つは、より適切に、または効果的に文章を書くための学習を行い、指導内容を「深める」発展的な学習である。書く力を高めるためには、知識・理解・技能だけでなく、ものの見方や考え方、感じ方を豊かにしていくことや表現の効果を考えながら書く思考力や判断力をはぐくむことが重要である。単元の指導目標を達成したと判断される児童には、内容を吟味する学習や表現の効果を確認する学習を設定することで一層、書く力が高まると考えた。

発展的な学習の具体的な学習例は表の通りである。

「広げる」発展的な学習例	「深める」発展的な学習例
<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手を広げる・・・友達に向けて書いた文章を保護者や地域の人に向けて書く。 ○ 方法を広げる・・・新聞形式で書いたものをリーフレット形式に書き換える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手や目的に応じて効果的な題材を選ぶ。 ○ 中心が明確になるように効果的に文章を構成する。 ○ 意見や感想の内容を自分の生活の向上や社会の改善につながるような内容で的確に書く。

【補充的な学習と発展的な学習の流れ】



2 補充的な学習と発展的な学習の例一覧表の作成

補充的な学習と発展的な学習は、指導目標が達成できているかを確かめながら、児童の学習状況に応じて行われるものである。

そのためには、具体的な評価規準を作成するとともに、指導内容の系統性をふまえ、どのような補充的な学習と発展的な学習を行うかを明らかにしていくことが必要である。

国語科の学習は、系統的・段階的に行われ、螺旋的・反復的に繰り返しの学習を基本としている。その際、表現様式の特徴に応じた指導を行うことが重要である。例えば、「手紙を書くこと」と「学級新聞を書くこと」では指導の重点が異なる。言語活動例に示された表現様式の系統性を踏まえた指導を重ねることが、確かな書く力を高めることにつながる。

そこで、学習指導要領に示されている言語活動例を「伝え合う言語活動の系統」「情報収集の言語活動の系統」「総合的な言語活動の系統」の三つに分けて系統ごとに補充的な学習と発展的な学習の例一覧表を作成した。

「書くこと」の指導について言語活動例を基に、次のような三つの系統に整理した。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
伝え合う言語活動の系統	・伝えたい事を簡単な手紙などに書くこと。	・手紙を書くこと。	・礼状や依頼状などの手紙を書くこと。
情報収集の言語活動の系統	・先生や身近な人などに尋ねた事をまとめること。	・自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること。	・自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと。
総合的な言語活動の系統	・絵に文字を入れる(入門期) ・観察した事を文などに表すこと。	・経験した事を記録文や学級新聞などに表すこと。	・経験した事をまとめた記録や報告にすること。

各系統の一覧表は、次のような観点で作成した。

▼次ページ【情報収集の言語活動例の系統一覧】の一部

- 【言語活動例】学習指導要領に示された言語活動例を系統ごとに低・中・高学年で整理した。低学年の入門期の活動は「総合的な言語活動の系統」に含めた。
- 【指導事項】言語活動例との関連を図り、学習指導要領の「書くこと」の内容を具体的なものとして示した。
- 【補充的な学習】言語活動例との関連を図り、下学年までに指導した内容や言語事項に関する内容について必要であると思われるものを示した。
- 【発展的な学習】言語活動例との関連を図り、相手や方法などをかえて書く活動などの「広げる」学習と、より適切に、または効果的に書く活動などの「深める」学習に整理して示した。
- 【日常化例】書く力は、日常化することにより養われるとの観点から、他教科や学校教育活動全体の中で発揮できる機会を設定し、言語活動例との関連から考えられるものを示した。

学年	第1学年及び	
言語活動例	○先生や身近	
指導事項	ア) 誰に、何 イ) 書こうと ウ) 分かった エ) 語や文の	
補充的な学習	ア	・相手や目的
	イ	・情報収集を
	ウ	・「はじめ・
	エ	・文の続き方
	その他	
発展的な学習	広げる	○相手や目的 ○必要な情報 ○読み手によ
	深める	○「わかったこ ○「はじめ・
日常化例	・学校探検カー ・今週のニュー	

◆「書くこと」の指導における補足的な学習・発展的な学習の例 【情報収集の言語活動例の系統】

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
言語活動例		○先生や身近な人などに尋ねたことをまとめること	○疑問に思ったことなどについて調べてまとめること	○自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと
指導事項		ア) 誰に、何のために書くのかをはっきりさせて書くこと イ) 書こうとする題材に必要な事柄を集めること ウ) 分かったこと、考えたことなどが明確になるように簡単な組み立てを考えること エ) 語や文の続き方に注意し、順序を考えて書くこと	ア) 相手や目的を意識し、工夫して書くこと イ) 適切に情報を集めたり、必要な情報を選んだりすること ウ) 調べて分かったことと考えたことを区別し、段落を組み立てること エ) 書こうとするものの中心を明確にし、段落の続き方に注意して書くこと	ア) 目的や意図に応じて自分の考えを工夫して書くこと イ) 全体を見通して、書く必要のある事柄を収集、選択、整理すること ウ) 自分の考えを明確に表現するために効果的な構成、種類、形態を考えること エ) 事実と感想・意見を区別し、軽重を考えて効果的に書くこと
個に 応じた	ア	・相手や目的を始めに書く。	・共通の相手や目的で、調べて書く。	・身近な生活や例題から課題を見付けて書く。
	イ	・情報収集を指導者と一緒に行い「分かったこと」「思ったこと」を色別の付せんに書く。	・情報収集や選択を指導者と一緒に行い「分かったこと」「自分の考え」を色別の付せんに書く。	・情報収集、選択、整理の仕方を指導者と一緒を考え、「事実」「感想・意見」を色別の付せんに書く。
	ウ	・「はじめ・中・終わり」の組み立て表に、順序を考えて付せんに貼る。	・「書き出し・中心・結び」の組み立て表に、段落を考えながら付せんに貼る。	・共通の構成表に、段落や順序を考えながら付せんに貼る。
	エ	・文の続き方に注意して、組み立て表をよく見ながら書く。	・伝えるものの中心や順序を一つ一つ確かめながら、組み立て表をよく見て書く。	・内容や構成を一つ一つ確かめながら書く。
	その他			
学習	発展的な学習例	○相手や目的をかえてかく。 ○必要な情報を自分でできるだけたくさん集める。 ○読み手によく分かる書き表し方を工夫する。	○相手や目的に応じて、調べる方法や項目を自分で考える。 ○様々な情報を集め、目的に合わせて必要な事柄を選ぶ。	○自分で書くことの目的や意図を明らかにして書く。 ○目的に合った資料を収集し、全体を見通して取捨選択する。
	深める	○「分かったこと」「思ったこと」を順序よく組み立てたり、必要なことを選んで書いたりする。 ○「はじめ・中・終わり」の構成を意識して書く。	○調べてさらにみつかった課題、事実に対する自分の考えや主張などを、順序をよく考えて組み立てる。 ○事柄の軽重によって、段落や配分を考える。 ○効果的な組み立てやまとめ方を考える。	○課題を深めさらに調べたり、自分の意見を支える事実や根拠を複数用意する。 ○様々な文章構成を学び、伝えたい内容によって選んで書く。 ○目的に応じて詳しさや分量を調節する。 ○効果的な文章構成や形態、まとめ方を考える。
日常化例		・学校探検カード ・今週のニュース ・アルバムを作ろう ・絵入りの説明書作り	・自由研究レポート ・社会科・総合的な学習の時間での新聞作り、発表資料作り ・理科での観察記録	・パソコンによるプレゼンテーション ・他教科や総合での調べ学習のまとめ ・新聞や雑誌への投書

3 補足的な学習と発展的な学習の効果的な指導

指導体制の工夫改善は、学校が一体となって取り組むことが重要であり、いくつかの学校では、国語科の習熟度別や興味・関心別による少人数学習が実施されている。しかし、そのような少人数指導を小学校の国語科で実施している事例は、まだ、多くはない。

個に応じた指導の充実を図るためには、様々な指導体制の中で工夫しながら、その特長を生かした指導を実施することが求められる。

そこで、指導体制ごとにどのように補足的な学習・発展的な学習を展開することが効果的であるのか、また、実施上、どのような配慮が必要なのかを検証授業を通して明らかにしたいと考えた。

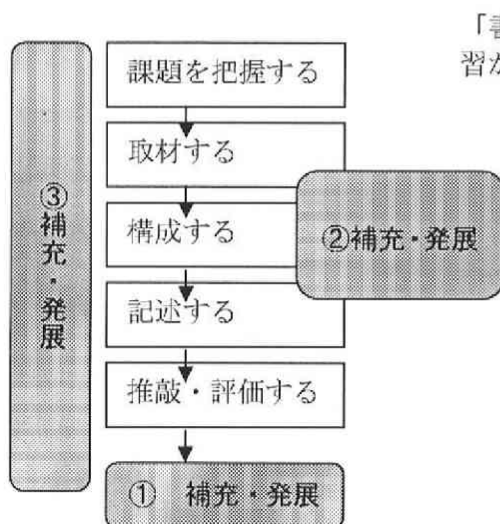
(1) 指導体制

学級担任一人による指導と複数の指導者によるコース別指導を取り上げ、検証授業を行う。まず、担任一人で行う場合の補足的な学習と発展的な学習のよさや配慮すべき点を明らかにする。補足的な学習や発展的な学習は、コース別学習や少人数学習においてのみ行われるものではなく、学級担任一人による指導においても行われる必要があると考えたからである。

次に、指導者2名以上によるコース別指導について検証授業を行う。これは、同学年を担当する教師が共同で習熟度別や興味・関心別等のコース別の指導を行う場合を想定している。加配教諭がいなくとも、コース別の学習を展開する事例として研究開発を進める必要があると考えたからである。

	学級担任一人による指導	複数の指導者によるコース別指導
よさ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的な児童理解に基づく支援が可能である。 ○ 的確で効率的な支援ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習熟の程度や興味・関心などきめ細かく個に応じることができる。 ○ 学習に対する満足感を得やすい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習状況の把握 ● 学習進度など個人差への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童に関する情報不足 ● 評価規準の確認と共通理解
	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的評価規準の作成 ● 教材開発 	
配慮点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の支援計画の作成 ・ 学習状況に応じた教材の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コース別学習内容の十分なガイダンス ・ コース別学習のねらいの明確化 ・ 教員間の定期的な情報交換

(2) 指導場面



「書くこと」の指導過程に沿って補足的な学習と発展的な学習が行われる場面を整理する。

- ①…単元の終りに位置付ける場合である。単元の学習状況を判断し、身に付けた力を活用・応用して取り組む学習（発展的な学習）と定着を図る学習（補足的な学習）を行う。
- ②…指導過程の中で、単元の中心的なねらいにかかわる場面について行う補足的な学習と発展的な学習である。
- ③…単元全体にわたって行う補足的な学習と発展的な学習である。

4 指導事例

【事例1】 情報収集の言語活動例の系統 学級担任一人による指導

- (1) 単元名 「海の生き物の不思議を伝えよう ～生き物の知恵パートⅡ～」(第2学年)
- (2) 単元の目標 海の生き物の知恵を読み取ったり進んで調べたりして、文章構成や説明の順序、表現の仕方などに気を付けながら説明文を書くことができる。
- (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・理解・技能
・写真を使った説明の仕方に興味をもち、海の生き物の知恵を読み取ったり進んで調べたりして、意欲的に説明文を書こうとしている。	・自分が興味をもった海の生き物について、説明に必要な情報を集めて書いている。 ・写真や文章から分かることを使って、文章構成や表現の仕方に注意しながら文章を書いている。	・主語や述語、接続語、文末表現、文と文の接続に注意して、読みだり書いたりしている。

(4) 単元における補充的な学習と発展的な学習

指導事項	補充的な学習	発展的な学習
・書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	・読むことの教材で学習したことを手がかりに考える。	・目的に照らし、必要な事柄かを考えながら情報を集める。
・自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。	・メモをもとに、大きなまとまり「はじめ、中、終わり」を考える。	・説明的文章の組み立てを考え、事柄ごとのまとまりを意識して、区切りを考える。

(5) 補充的な学習と発展的な学習の手だて

ア 個別の支援計画の作成

児童一人一人の個性を把握し、学級経営の中で蓄積している様々な児童に関する情報を具体的な指導の場面で生かすことができる。そのために、書くことの実態を基に個別の支援計画を作成した。

イ ワークシートの工夫

内容を読み取った後、写真を説明する文章を書くワークシートを3種類用意して、児童が使いたいものを選択できるようにした。また、自分が書くときの参考になるようなシートやヒントカードを用意した。さらに、児童の思考過程が把握できるような組み立てシートを用意し、情報をメモした付せん紙を並べ換えて貼れるようにした。

ウ 児童の学びを促す相互評価

書いたものを自分の力で直すことができるような推敲カードを工夫した。また、友達のよいところを見つけられるようなカードを用意し、できた児童から友達同士で読み合い、分かりやすさや表現の工夫などを互いに認め合い学ぶ場を設定した。

氏名	好きな文章を書くのが好き		本を読んだり図鑑を調べるのが好き		主語述語の関係に気をつけて書く		句読点のつけ方を覚えている		文章のまとまりを考えている		おもしろい文章を写している		丁寧な文章を写している		興味のある生き物	支援の重点
	児童	教師	児童	教師	児童	教師	児童	教師	児童	教師	児童	教師	児童	教師		
1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ある	文章のまとまり
2	×	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	なし	主語の対応、文のつながり
3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	ある	丁寧さ、文章のまとまり
4	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	△	ある	丁寧さ、文章のまとまり
5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ある	より詳しく分かりやすく
6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ない	文章のまとまり文のつながり

▲個別の支援計画

ヒントカード

説明する文は、つぎのことに気をつけよう。

大切なのは、読み手がわかるように書くこと。

読み手がわかるように書くためには……

ポイント①
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。

ポイント②
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。

ポイント③
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。
「～は、～です。」という文のつなぎを覚えてみよう。

(6) 単元の指導計画 (11 時間扱い)

時	主な学習活動	支援 (☆補充★発展) ◆評価
第一 二次 ⑤	1 写真を見て説明する文章を書く。 2 「サンゴの海の生き物たち」を読み、共生の知恵を読み取る。 3 読み取ったことを基にして写真に説明をつける。 4 説明の展開例と文章構成、筆者の工夫した書き表し方をつかむ。 ※「読むこと」の指導をとおして、文章構成、説明の工夫に気付かせる。	
第三 次 ⑥	1 興味をもった海の生き物の知恵を調べる。調べ学習＝並行読書 2 調べてわかったことをメモする。 3 組み立てシートで情報を整理する。 4 組み立てシートを見ながら、説明文を書く。 5 書いたものを推敲し、友達と紹介し合う。 6 本に仕上げる。	☆情報を選択できない児童には、易しい資料を提示したり一緒に読んだりしてヒントを出し、自分で絞り込めるように助言する。 ★必要な情報を取捨選択できるようにする。 ☆説明の順序を考えさせ、付せん紙の並び換えを支援する。 ☆書き進められない児童には、対話しながら口頭作文させて書くようにさせる。前後の文章を読んで順序を考えさせる。 ★自分の考えを入れ、表現の仕方を工夫し、より良い文章が書けるように促す。 ◆自分で調べたことを基に、文章構成を意識し表現の仕方を工夫しながら、大事な観点を落とさずに書いているか。(シート) ◆自分の文章を読み返し、推敲ができてきているか。(観察・シート)

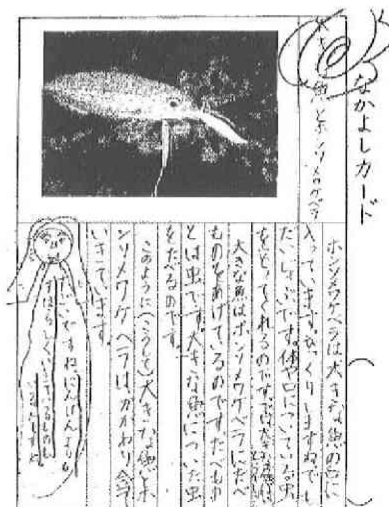
(7) 本時の学習 (10/12)

- ア 目標 組み立てシートを基に、説明の順序を考え、表現を工夫して、海の生き物の知恵を説明する文章を書くことができる。
- イ 展開

学習活動	支援 (☆補充★発展)
1 学習のめあてを確認する。 2 組み立てシートを見ながら「中」「終わり」を書く。 3 書いたものを読み直し、推敲する。 ・説明の順序、文の続き方はよいか。 ・主語と述語の照応、文末表現はよいか。 ・習った漢字や片仮名は正しく使えたか。 ・助詞は正しく使っているか。 ・句読点の打ち方はどうか。 ・丁寧に書けたか。 4 友達と交換して読み合う。 ・友達の表現のよいところを見つける。 ・交換していない友達に紹介する。 5 自分の知りたい、聞きたい海の生き物を書いた友達の所へ行き、説明を聞く。 6 本時の学習を振り返る。 ・友達の書いた説明文で印象深かったところを発表する。	☆書き進められない児童には、対話しながら口頭作文させてから書かせたり、例文を提示したりして取り組ませる。 ☆前後の文章を読んで文の続き方を考えさせる。 ★事柄の区切りや説明の順序を意識して分かりやすく書くように促す。 ★まとめの書き方の工夫をさせたり、より良い文章になるように表現を工夫させたりする。 ☆完成の見通しがもてるように助言する。 ☆★認める。励ます。褒める。 ☆書いた文章を声に出して読み返し、表記や表現の間違いに気付くようにさせる。 ★自分の力で観点に沿って推敲し、さらにより良い文章にできるよう意識を高める。 ☆でき上がったら友達と交換して読み合うように促す。 ★進んで相手を見つけて交流できるよう、友達のよいところを見つけられるように促す。

(8) 考察

- ア 学級担任 1 名による指導
- 児童一人一人のことをよく理解している指導者が行うことで、的確で効率的な支援ができた。
 - きめ細かい指導には指導目標に関連した個別の支援計画を立てることが有効であることが明らかになった。
- イ 発展的な学習の成果
- 指導目標を達成できた児童には、学習したことを役立てる、生活に生かす場面を設けることも必要であることが明らかになった。
- ウ 補充的な学習の成果
- 学習状況に応じた 3 種類のワークシートを準備することで、基礎的・基本的な内容を身に付けさせたい児童に繰り返し学習の場を設けることができた。
- エ 改善点
- 児童の書く速さに柔軟に対応する方策も必要である。



【事例2】 総合的な言語活動例の系統 複数の指導者によるコース別の指導

(1) 単元名 「ちょっと気になる周りの声について、意見文を書こう」 (第5学年)

(2) 単元の目標

自分の考えを分かりやすく伝えるために、根拠となる具体的な事実を示し、文章全体の組み立て方に気を付けながら、筋道を立てて意見文を書くことができる。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・理解・技能
・身の回りから興味・関心のある事柄を選び、それについて自分の考えたことを、意見文に書こうとする。	・根拠となる具体的な事実を示し事実と考えとを区別して文章に書き表している。 ・自分の考えを分かりやすく伝えるために効果的な文章構成を工夫している。	・事実と意見の書き分け方や考えの中心となる文の置き方など、文章にはいろいろな構成があることを理解している。

(4) 単元における補充的な学習と発展的な学習

指導事項	補充的な学習	発展的な学習
・根拠となる具体的な事実を示し、事実と考えを区別して書くこと。	・共通の題材を選び、話し合う。自分の考えと、その根拠となった具体的な事実をメモする。	・根拠として挙げた具体的な事実が、適切なものであるかどうかを考えながら書く。
・効果的な文章構成を工夫し書くこと。	・基本的な文章構成を確かめて書く。	・いろいろな文章構成の仕方を知り、効果的な構成や表現を工夫して書く。

(5) 少人数の指導形態による補充的な学習と発展的な学習の手だて

ア コースの選択

一斉学習で意見文の書き方を学習し、共通の題材で意見文を書いたあと、二つのコースに分かれるようにする。各コースの学習内容についてのオリエンテーションと、書いた意見文の自己評価をもとに、児童が学習のめあてをしっかりと、自分でコース選択をする。また、適切に自己評価するための観点などを示す。指導者は、取材、記述からコース選択について支援し、児童の学習状況に応じた学習が行えるように配慮する。

イ 指導内容

補充的な学習では、共通の題材で学習を進め、根拠となる事実や体験を多く見付けること、既習内容である基本的な文章の組み立て方で書くことを主な内容とした。

発展的な学習では、投稿記事や友達の書いた意見文などを題材にして、いろいろな文章構成を知り、効果を考えながら書くなど質を向上させることを主な内容とした。

(6) 単元の指導計画 (7時間扱い)

	形態	主な学習活動	支援
一次	一斉	1 教材文を読み感想を話し合う。 2 意見文の書き方を知り、学習の見通しをもつ。 3 例文をもとに意見文を書く。 4 意見文を読み合いよい点や書き方を確かめる。	新聞の投稿記事などを持ち寄り、掲示する。 ※学習内容や自分の書いた文章から、コースを選択する。
二次	コース別	じっくり書こうコース	はりきって書こうコース
		5 例文を読み、思ったことを発表し合う。 6 意見文の書き方を確かめる。 7 題材を選ぶ。 8 組み立てメモを作る。 9 組み立てメモを基に意見文を書く。 10 文章を読み返し推敲する。	5 教材を読み、いろいろな文章構成を知る。 6 投稿記事を読み、自分の考えをメモする。 7 組み立てメモをつくる。 8 組み立てメモをもとに意見文を書く。 9 文章を読み返し推敲する。 10 友達の意見文を読み、それに対する意見を文章にまとめる。

(7) 本時の学習（6時間目）

じっくり書こうコース		はりきって書こうコース	
○ 本時の目標 根拠となる具体的な事実を示し、文章全体の組み立てに気を付けて意見文を書く。		○ 本時の目標 友達の書いた意見文や新聞の投稿記事から関心のある題材を選び、それに対する自分の意見を、構成の効果や表現の効果を考えて書く。	
主な学習活動	★ 補充的な学習への支援 ◇ 評価	主な学習活動	☆ 発展的な学習への支援 ◇ 評価
1 本時のめあてを確かめる		1 本時のめあてを確かめる。	
組み立てメモを基に意見文を書こう		友達の意見文や投稿記事についての自分の意見を構成や表現の効果を考えて書こう	
2 提示された意見文を読み文章の組み立て方を確かめる。	★ 次の点に留意するよう助言する。 ・文末表現 ・接続詞 ・一文を短くする。 ・主語と述語を整える。	2 提示されている友達の意見文や投稿記事を読み、それに対する自分の意見を文章にまとめる。 【構成例】 ・意見—事実（根拠）—まとめ（意見） ・問題提示—事実—まとめ ※事実の数は限定せず、効果を考えて取り入れる。	☆ 構成メモの書き方は定めず、自分の書き方で良いことを助言する。 ☆ 字数は400字程度とし、書き終わったら題材をかえて意見文を書いてよいことを知らせる。 ◇ 自分の意見を構成や表現の効果を考えて書いているか。（作品） ・書き出し ・語彙
3 根拠となる具体的な事実が書かれているか組み立てメモを見直す。		3 本時の学習についてふり返る。 ※友達や自分の意見文 ※意見のやりとり ・次時の学習活動を知る。	・作品を紹介する。
4 メモをもとに、自分の考えを文章にまとめる。 ・手引きを活用する。 ・用紙を選んで書く。	★ 書き終わったら、「はりきって書こうコース」で、同じ題材で書いている友達の作品と読み比べるようにする。		
5 本時の学習をふり返る。 ・次時の学習を知り、めあてをもつ。	◇ 事実を示し、文章全体の構成を考えながら、筋道の立った意見文を書けているか。（作品）		

(8) 考察

ア 複数の指導者によるコース別学習

- ・各コースで自己評価や学習のめあてを示し、どのような学習を行うかについてガイダンスをていねいに行ったので、児童が円滑にコース選択を行うことができた。
- ・「はりきって書こうコース」の児童がすべて発展的な学習を行うわけではないので、的確な学習状況の把握が必要である。

イ 発展的な学習の成果

- ・掲示物などに児童が学習を進める上で参考となる情報を多く準備したことが、主体的な学習を促進していた。
- ・学習内容を、論理的な思考や構成の効果を考えることなど「深める」内容に焦点化したことは適切であった。また、自分で題材を見付けること、意見文のリレーなど児童の主体性を生かすようにしたことは個性に応じることにつながった。

ウ 補充的な学習の成果

- ・ゆっくり指導することができたので、何をどのように書いてよいのか分からず戸惑っていた児童も、自信をもって書き進めることができた。
- ・指導者がきめ細かく指導することができるので、そのことが児童の満足感につながっていた。

エ 改善点

- ・多様な意見が生まれにくい状況も見られた。コース間の交流が図れるような柔軟な指導体制が必要である。

8	7	6	5	4	3	2	1
自分の考えのまとめる根拠(理由)は、具体的な体験や事実に基づいていますか。	自分の考えと、体験したことを事実とを自分なりに整理していますか。	根拠となる事実を効果的に使っていますか。	自分の考えを分かりやすく伝えるために、文章の組み立てを工夫していますか。	読みやすい文章で書いていますか。	漢字や、一語、一語、一語は正しく使えていますか。	事柄の正しさとともに気を付けて、誤謬の無い文章で書いていますか。	主語と述語は揃っていますか。
◎	◎	△	◎	◎	◎	△	○

▲自己評価カード

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
自分の考えのまとめる根拠(理由)は、具体的な体験や事実に基づいていますか。	自分の考えと、体験したことを事実とを自分なりに整理していますか。	根拠となる事実を効果的に使っていますか。	自分の考えを分かりやすく伝えるために、文章の組み立てを工夫していますか。	読みやすい文章で書いていますか。	漢字や、一語、一語、一語は正しく使えていますか。	事柄の正しさとともに気を付けて、誤謬の無い文章で書いていますか。	主語と述語は揃っていますか。	自分の意見文の構成や表現の効果を考えて書いているか。	自分の意見文の構成や表現の効果を考えて書いているか。
◎	◎	△	◎	◎	◎	△	○	◎	◎

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 「書くこと」の指導における補足的な学習と発展的な学習について

国語科の学習の特質を踏まえ、研究協議を重ねた結果、次のように補足的な学習と発展的な学習を整理することができた。

補足的な学習	<p>○「おおむね満足できる状況（B）」に到達していない児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導目標を達成させるため習熟の不足を補い定着を図る学習 ・指導目標に関連する既習内容の学習
--------	--

<p>○「おおむね満足できる状況（B）」に到達しているの児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や方法をかえて書くなどの広げる学習 ・内容を吟味したり表現の効果を考えるなどの深める学習 ・言語生活の質の向上や日常化につながる学習 	発展的な学習
--	--------

(2) 補足的な学習・発展的な学習の例一覧表の作成について

学習指導要領に示された言語活動例から「伝え合う言語活動例」「情報収集の言語活動例」「総合的な言語活動例」の三つの系統ごとに、低・中・高で考えられる「補足的な学習・発展的な学習」の例を整理し、一覧表にまとめた。一覧表を活用することで、補足的な学習と発展的な学習を計画する上での参考とすることができた。

(3) 指導体制による「補足的な学習・発展的な学習」の効果的な指導について

指導体制ごとのよさや配慮点などについて、検証授業を通して明らかにすることができた。

	学級担任一人による指導	複数の指導者によるコース別の指導
よさ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を十分把握 ・個のよさを引き出す指導 ・児童の実態に応じた柔軟な指導過程 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態（習熟の程度、学習の速さなど）に応じた学習の場 ・等質集団による効率よい指導 ・きめ細かく適切な支援
配慮点	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的な評価のための支援計画 ・児童の実態に応じた多様なワークシート等の教材開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別指導の目的の明確化 ・適切な単元や指導場面の設定

2 今後の課題

(1) 評価の工夫

「補足的な学習・発展的な学習」における評価のとらえ方、評価方法、指導への生かし方などは、指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導を行う上で課題である。

(2) 「補足的な学習・発展的な学習」における教材開発

基礎的・基本的な内容の確実な定着と、その上に立った学習の広がりや深まりが言語生活に根ざした確かな力となるよう、各単元においての教材開発が必要である。

(3) 年間指導計画における「補足的な学習・発展的な学習」

「書くこと」の年間指導計画において、「補足的な学習」「発展的な学習」をどのように位置付け、進めていくかについては、今後さらに検討していかなければならない。また、「話すこと・聞くこと」「読むこと」と関連させながら効果的に行う「補足的な学習・発展的な学習」についても開発していく必要がある。